



令和3年1月15日

各位

会社名 株式会社ディー・ディー・エス
代表者 代表取締役会長 三吉野 健滋
(東証マザーズ・コード番号 3782)
問合せ先 経営管理部長 小野寺 光広
電話番号 052-955-5720
(URL <http://www.dds.co.jp>)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、令和2年2月14日に公表した令和2年12月期通期（令和2年1月1日～令和2年12月31日）の連結ならびに個別の業績予想を下記の通り修正いたします。

1. 令和2年12月期通期業績予想の修正（令和2年1月1日～令和2年12月31日）

〔連結〕

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,660	330	354	369	8円88銭
今回修正予想 (B)	1,157	△99	△114	△118	△2円68銭
増減額 (B-A)	△503	△429	△468	△487	
増減率 (%)	△30.30	—	—	—	
前期実績 (令和元年12月期)	1,164	△164	△266	23	0円56銭

〔個別〕

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,610	300	323	338	8円10銭
今回修正予想 (B)	990	△135	△205	△209	△4円73銭

増減額 (B-A)	△620	△435	△528	△547	
増減率 (%)	△38.50	—	—	—	
前期実績 (令和元年 12 月期)	1,150	△149	△252	37	0 円 91 銭

2.業績予想の修正理由

海外及び国内指紋センサ事業におきましては、スマートフォンメーカー向け販売が、2020年11月13日発表第3四半期決算短信に記載しております通り、案件進捗が大幅に延伸している状況から変わらず、第4四半期に於いても計画通り進まず、当期売上計上が困難となりました。

一方、成長している海外システム事業での更なる伸長を目指しましたが、第4四半期に全世界での新型コロナウイルス感染症の再拡大がみられ、複数のプロジェクトに於いて、検収まで至らず一部売上計上は来期以降となりました。

また、マガタマ・FIDO 事業につきましては、数社の大型案件に対し POC (概念実証) を有償で受注し検証を終え準備万端であったため、FIDO2 の本格的普及とともにサービスインを予定しておりましたが、メインの顧客である金融市場は投資に対しての審査が厳しく、当期でのサービスインは受注出来ませんでした。

メイン事業でありますバイオ事業においては、堅調に推移しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大がみられ、導入作業の遅延が第4四半期に多く発生し、事業全体の売上のリカバリには及びませんでした。

さらに「MICROMETRICS TECHNOLOGIES PTE. LTD.の株式取得(子会社化)」に伴い、同社と共同で進めておりました複数の開発プロジェクトの費用の資産計上の検討評価を行いました。事業環境や今後の見通し等を勘案し、全て当期費用として計上することにいたしました。

以上の結果、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益とも前回発表予想を下回ることが見込まれるため令和2年12月期通期の業績予想を修正いたします。

また、連結業績予想の修正については、個別業績予想の修正の影響によるものであります。

(注)上記業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであります。実際の業績等は様々な要因により上記数値と異なる場合があります。

以上